



# AJP PRESS

ASIA JOINT-DEGREE PROJECT

2015.WINTER

Vol.10

## AEL Winter Course 2015 開催 8名が AEL Course 修了

東北大学大学院教育学研究科では、「アジア共同学位開発プロジェクト」の一環として、AEL (Asia Education Leader) Courseを2014年から開催しています。2014年7月に東北大学で開催されたSummer Courseに続いて、2015年1月19日から2月6日までの19日間にわたりAEL Course Winter Course 2015が国立政治大学教育学院(台湾)で開催されました。

Winter Course 2015には、東北大学の大学院生をはじめ、国立政治大学(台湾)、南京師範大学(中国)、高麗大学(韓国)から計16名の学生が参加しました。学生は英語で開催されたEmotional and Behavioral Problems in Adolescents (K)、

Educational Exchange in Rival States (A)、Field Study (S)、Research Study II (Taiwan) (P)などの科目を受講しました。各講義にはフィールドワークなどのアクティブな活動が含まれており、学生はその土地でしか学ぶことのできない知を獲得したようです。(次頁参加記参照)

AEL Courseでは、最低2か国以上(学籍がある国を含む)を訪問し、Knowledge、Attitude、Skill、Practiceに分けられたクラスターからそれぞれ2単位以上(Practiceについては4単位)、最低12単位以上取得した学生に修了証が授与されます。この度のWinter Course 2015をもって8名が修了要件を満たし、うち7名(南京師範大



学3名、国立政治大学4名)から修了証の申請があり、審査後その学生に修了証が発行されました。Asia Education Leader Course 1期生がここに誕生したことになります。AJPでは引き続き学生のモニターを続けながら、このコースモデルを活用し、東アジアにおけるJoint Degree Program開発をさらに推進していきます。



### Schedule of Winter Course 2015

Department of Education, National Chengchi University January 19<sup>th</sup>(Mon)- 30<sup>th</sup>(Jan), 2015

19 <sup>th</sup> (Mon)	8:00~18:00	A: Educational Exchange in Rival States	Prof. CHOU, CHUING Prudence
20 <sup>th</sup> (Tue)			
21 <sup>st</sup> (Wed)	8:00~18:00	P: Research Study II (Taiwan)	Prof. WU, CHENG-TA Prof. GUO, CHAO-YU
22 <sup>nd</sup> (Thu)			
23 <sup>rd</sup> (Fri)	8:00~18:00	S: Field Study	Assoc. Prof. CHENG, TUNG-LIAO
24 <sup>th</sup> (Sat)			
25 <sup>th</sup> (Sun)	Free day		
26 <sup>th</sup> (Mon)	8:00~18:00	P: Research Study II (Taiwan)	Prof. WU, CHENG-TA Prof. GUO, CHAO-YU
27 <sup>th</sup> (Tue)			
28 <sup>th</sup> (Wed)	8:00~18:00	S: Field Study	Assoc. Prof. CHENG, TUNG-LIAO
29 <sup>th</sup> (Thu)			
30 <sup>th</sup> (Fri)	8:00~18:00	A: Educational Exchange in Rival States	Prof. CHOU, CHUING Prudence
31 <sup>st</sup> (Sat)	Free day		
1 <sup>st</sup> (Sun)	Free day		
2 <sup>nd</sup> (Mon)	8:00~18:00	A: Educational Exchange in Rival States	Prof. CHOU, CHUING Prudence
3 <sup>rd</sup> (Tue)	8:00~18:00	K: Emotional and Behavioral Problems in Adolescents	Asst. Prof. FU, RU-HSIN
4 <sup>th</sup> (Wed)			
5 <sup>th</sup> (Thu)			
6 <sup>th</sup> (Fri)			

# AEL Summer Course 2015 開催

2015年1月に国立政治大学教育学院(台湾)で開催されたWinter Course 2015に続いて、2015年7月15日から31日までの17日間にわたり南京師範大学教育科学学院、心理学院でSummer Course 2015が開催されました。

Summer Course 2015には、東北大学の大学院生をはじめ、南京師範大学(中国)、国立政治大学(台湾)、国立台湾師範大学(台湾)から計18名の学生が参加しました。学生は英語で開催されたValues and Innovation in China's Educational Policies (K)、Moral Education of Young Children in China (A)、Advanced Data Analysis (S)、Children and Youth in China (P)などの科目を受講しました。

学生の参加記に見られるように、学生たちは外国の教育事例を参照項とし、外

国の学生とディスカッションすることにより自国の事例を相対化する視点を獲得しています。AEL Courseの特性上、開講科目が必ずしも学生の専門分野にマッチしているとは限りませんが、Asia Education Leaderたる専門家に求められるのはそういった多様な立場から事象を捉える視点であり態度です。その意味で本コースは学生にとっても有意義な学びの機会となっています。ただし、複数の学生が指摘していますが、より深い学びとするには現地語の事前習得がポイントのようです。コースプログラムに現地語習得は含まれていませんが、アジアを学ぶには参加者に対する言語的なサポートプログラムの開発を検討していく必要があります。



## Schedule of Summer Course 2015

College of Education, Nanjing Normal University School of Psychology, Nanjing Normal University  
July 15<sup>th</sup>(Wed)- 31<sup>st</sup>(Fri), 2015

Schedule of Summer Course 2015			
College of Education, Nanjing Normal University School of Psychology, Nanjing Normal University July 15 <sup>th</sup> (Wed)- 31 <sup>st</sup> (Fri), 2015			
15 <sup>th</sup> (Wed)	9:00~9:20	Course Orientation	
	9:20~17:00	S: Advanced Data Analysis	Ms. Yingjia Wan
16 <sup>th</sup> (Thu)	9:00~17:00		
17 <sup>th</sup> (Fri)			
18 <sup>th</sup> (Sat)			
19 <sup>th</sup> (Sun)	9:00~17:00	P: Children and Youth in China	Assoc. Prof. Qiang Wang
20 <sup>th</sup> (Mon)		(Nanjing Youngster's Palace, Nanjing Science and Technology Museum, Teacher Tao's Workshop, Elementary School Students Summer Camp, Nanjing Yunjin Museum, Xianlin Campus of Nanjing Normal University)	Ms. Yingjia Wan
21 <sup>st</sup> (Tue)		Prof. Jingbo Liu	
22 <sup>nd</sup> (Wed)		Ms. Siying Chen	
23 <sup>rd</sup> (Thu)		9:00~20:00	Visiting Nanjing City & Dinner
24 <sup>th</sup> (Fri)	9:00~17:00	A: Moral Education of Young Children in China	Prof. Jingbo Liu
25 <sup>th</sup> (Sat)			
26 <sup>th</sup> (Sun)			
27 <sup>th</sup> (Mon)			
28 <sup>th</sup> (Tue)	9:00~17:00	K: Values and Innovation in China's Educational Policies	Assoc. Prof. Qiang Wang
29 <sup>th</sup> (Wed)			
30 <sup>th</sup> (Thu)			
31 <sup>st</sup> (Fri)			

## AEL Course Summer Course 2015 参加記

### ● 王語芯

今回のAELのSummer Courseに参加して得た一番大きな成果は、単に授業で学んだということではなく、いろいろ角度や背景から問題を考え始めるようになったことです。また、国際的な授業を受けたことではなく、国際的な授業において、国際的な学生たちと交流ができたことです。教育には、異なる国や背景によって個別の問題があっても、共通の問題も少なくありません。そのまま、ある国の成功例を引用できなくても、他者の経験から学ぶこと、参考にすることができます。そもそもわたしは、このような考えをもって、日本へ留学に来ました。今回わたしは、東北大学の学生として、自国にもどって交流に参加できました。日本で学んだ知識や見聞をみんなと共有し話し合っ、自国の教育状況を再認識できたことはとても感慨深かったです。しかし今回私は、教育について、「国」に限らず、「国際」の立場に立って考えることになりました。つまり、教育を研究することは、一か国、二か国のことから考えるのではなく、国際的な知識の共有と国際的な人たちの協力が要るわけです。教育改革も「国」のためのみならず、全体的な人類のためのものではないかと思いました。

### ● 中村 和人

P科目では、南京市にある青少年教育関連施設を中心に様々な施設を訪問しました。具体的には、ピアノやバレーなど日本では習い事を地方の教育当局が子どもたちにほぼ無償で提供している少年宮、南京科学技術博物館、青少年とその家族を対象にしたカウンセリングセンター、そして素質教育をめざし公立小学校で行われているサマーキャンプなどです。特に少年宮や公立小学校のサマーキャンプへの訪問、担当者や子どもたちへのインタビューを通じて、中国も日本やその他の先進諸国同様、「何を知っているか(コンテンツ・ベース)」の教育から「何ができるか(コンピテンシー・ベース)」の教育に転換をはかろうとし、試行錯誤をしている段階にあるということを感じました。

今回の中国滞在では授業内外で様々な場所を訪問しましたが、会話で英語が通じるということの方が少なかったです。それは学校や博物館などの公的な施設においても然りです。確かにこのコースの目的には学術的な英語の運用能力向上もあると思いますが、より深い議論をするためにはその土地の言語をある程度、学んでいく必要があることを痛感しました。

### ● 登坂 如恵

これらの授業に共通して得られたものは、日本との相対化を通して、今後よりよいものを作り上げていくためにはどのようにすればよいのかという、現状に対する批判的なまなざしであるといえます。たとえば、Cluster Aでは、現在の中国における道徳教育と中国で見られる道徳に関するジレンマなど含めさまざまな問題点を挙げ、仮に現行の道徳教育に何かしらの要因があるとしたらそれは何であると考えられるか、そしてその要因を解決・改善するために何が必要なのかというようなことを、討論などを交えながらそれぞれの意見として共有し、よりよい道徳教育の今後のあり方を考えることができました。そしてCluster Kでは、これまでの中国の教育政策の概要を知ること、何がEFAを妨げているのか、もしくは何がEFAを普及するために不足しているのかなど、やはりこの講義でも現状に対する批判的思考を培うことができたように思います。

なお、ひとつだけ自分自身の課題として残ったものは、やはり現地言語の習得であるといえます。というのも、授業のなかで、中国語で議論がなされる機会がしばしば見られ、そのたびに通訳してもらっていたのですが、やはり生の言葉のまま何が言いたかったのかについて理解するほうが理想的であると言えます。そのために、本コースを受講するにあたり、前もって開催校の現地言語の習得を心がける必要があるのではないかと感じました。

## AEL Course Winter Course 2015 参加記

### ● 柿崎絵莉香

私は今回初めてAELコースへ参加させて頂きました。教室の外へ連れて行って貰えるアクティブな授業ばかりで、想像を超える充実した10日間となりました。実際に現地の教育現場や教育施設に見学に行き、お話を聞かせて頂いた中で、台湾の教育制度や教師の研修などの仕組みや考え方について学び、フィールドワークを通して、台湾の人々や伝統文化にも触れる機会も頂き、日本との違いを感じたり、違った角度から物事を考えていく大切さを学んだり、自身の視野を広げる有意義な経験となりました。

また、私自身、海外に行くことが初めての経験だったので、不安な面も多々ありましたが、アジアの学生と一緒にグループワークをしたり、コミュニケーションをとる中で、国境を越えて気持ちを共感できたり、助け合ったり、優しさを感じられたりすることの喜びを感じました。その反面、なかなか思ったように英語が出てこず、悔しい思いもしました。次回は、より自分の言葉で気持ちを伝えることができるよう、勉強に励んでいきたいと思ひます。

### ● 松本 恵美

今回のWinter Courseでは、様々な教育機関の訪問や現地の方々へのインタビュー、クラスメイトとの意見交換などとても貴重な経験ができたと思っています。何より、自分とは異なる文化を持つ友人との交流は、とても楽しく、去年の夏・今年の冬を通して多くの友人を作れたことをうれしく思いました。是非また、AELコースに参加したいと思います。

Field Studyでは言語の壁と、インタビュー能力の大事さを身に染みて感じる事ができたので、良い経験だったと思います。このコースで一番印象に残っていることは、現地のオルタナティブ教育を行っている小学校で、実際の教師の方々にインタビューし、仲間外れやいじめをどのように解決しているかについて聞いたことです。私の研究内容が仲間関係に関することなので、その学校の、教師が解決するのではなく生徒たち自身で解決させようとする方針や解決方法は聞いて色々参考になりました。

### ● 漆畑 俊晴

今回のWinter Courseの特徴として、二つあると思います。一つ目は、教育分野に留まらない広範囲な調査を行う授業が実施されたことです。台湾の歴史や文化、政治に触れることができたことは、台湾が目指す教育の方向性を理解するうえで非常に参考になりました。二つ目は、フィールド調査の機会が多く、現地で聞き取った情報について話し合う授業が展開されたことです。抽象的な議論ではなく、具体的な事例をもとに話し合うことで、私のように英語が不得意な学生であっても話し合いに参加することができました。

私はAEL Courseへの参加を通して、アジアが共通に抱える教育分野の問題への自身の関心が非常に高まったと思います。教師の専門性や学校教育の多様性の向上はアジアの国々に共通する課題であり、各国に先進的な取り組みをしている学校が点在していることを実際に行き見聞きする中で体感することができました。また、各国の学生とアジアの歴史について議論する場面では、それぞれがアジアの国々の抱える歴史的・地理的認識の差異を理解し、それをどう捉えていくべきかを課題として考えていることが分かりました。



## 外部評価委員会

2015年6月21日(土)、アジア共同学位開発プロジェクトは二宮皓教授(比治山大学)、小尾晋之介教授(慶應義塾大学)、Edward Anthony Vickers准教授(九州大学)を迎え、4度目の外部評価委員会を開催しました。

会議では、まず助教、田中助教より前年度の成果および課題について報告があり、陳助教より2014年度より新たに始まったAEL Courseの状況について報告されました。外部評価委員からは次のような評価および提案(以下、趣旨)がありました。

### ①AEL Courseの「共同性」について

AJPが目指すのは単位互換の実験ではなく、共同でプログラムを作ることなので、「共同性」が重要である。カリキュラムをどこまで調整して、どのようにそれぞれの大学の卒業要件に位置づけるのか検討する必要がある。国際連携プログラムの場合、片方に有利なプログラムでは「共同」とはならないので、連携大学とどのようなスキルを学生に付けたいのか、それぞれの大学がKASPにそって、だからこの科目を提供しようという協議が繰り返行なわれる必要がある。

その意味でもAEL Courseという共同のコースを作り、共同でサーティフィケートを発行するところまで進めてきたという点は高く評価できる。今後も共同学位や連携授業がこちらの利益・都合だけにならないように、連携大学及び連携大学の学生のニーズを的確に把握しながら進められる必要がある。

### ②AEL Courseの設計と運営について

AEL Courseが志向する人材像を考えると、アクティブな現地での学習が盛り込まれていることは重要なことである。その土地でしか学べないことを提供しているという点は高く評価できる。一方で、集中セミナー型であるため、学びの継続という観点からもう少し工夫が必要である。また、コーススケジュールに余裕を持たせローカルの学生と交流する機会を入れるようなことも今後必要となるだろう。

学生の奨学金という点については、行政が公募する各種奨学金を獲得することも重要であるが、実際に学生がどの程度の負担を感じているのか把握しておく必要がある。

### ③AJPの展望

このような経験を全く持たないところがある日突然ジョイント・ディグリーをしようと言っても不可能である。我が国で発行が可能となったジョイント・ディグリーの条件は、学生は定員の2割以内であること、修士であれば、東北大で15単位、外国で10単位、両者の共同運営科目を5単位(サマープログラムのような)のカリキュラムを設定する、1名以上の専任を置く(コーディネーターのような役割)こととされている。

その意味では、アジアの大学とパートナーを組むこと以外にも、例えばイギリスの大学とパートナーを組んでアジアに教育を提供するというモデルも考えられる。重要なことは、学生が参加したくなるようなプログラムの提供である。

ジョイント・ディグリーの挑戦は簡単ではないが、今後もアジアで問題なく生活できて相手のことを理解でき、しかも専門知識もある人を育てていけることを期待する。



## 2015年度上半期進捗状況 (2015年9月末日現在)

### Asia Education Leader Course

- AEL Course Winter Course 2015 2015年1月19日(月)～2月6日(金) 於:国立政治大学(台湾)
- AEL Course Summer Course 2015 2015年7月15日(水)～31日(金) 於:南京師範大学(中国)

### 外部評価委員会

- 2015年6月21日(日)、第4回外部評価委員会を開催(宮城県・東北大学文科系総合研究棟11階大会議室)

### 海外調査

- 2015年9月9日(水)～13(日) 高麗大学校



**AJP** ASIA  
JOINT-DEGREE  
PROJECT

[www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/](http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/)

東北大学 大学院教育学研究科 アジア共同学位開発プロジェクト事務室  
TEL:022-795-3756 E-mail:ajp@sed.tohoku.ac.jp